

いずみのひろば



『聖霊は、あなたがたと共にいる』

ヨハネによる福音書 14章 15〜24節



今日の聖書のお話は、イエスさまがこの地上からいなくなるというその時にイエスさまが、お弟子さんにお話しになったことばです。

この礼拝にお父さん、お母さんと一緒に来た子もいると思います。また、「教会へは自分ひとりで来ました」という子もいると思います。いずれにしてもお父さん、お母さんから「わたしはいつまでもあなたと一緒にはいないよ。神さまのもとにかえります。」「ここからの道は自分で歩いていくんだよ」と突然言われたらどうでしょうか。「どうして、どこへいくの？」これからどうすればいいの？」不安でいっぱいになると思います。また、逆にお父さん、お母さんの立場から、自分のこともとここでずっとお別れしなければならなくなったらとしたら、最後にかけることばを選ぶとしたら子どもに何と声をかけるでしょうか？

また、これが自分にとって大事な人、大切な人がなくなる直前、最後に掛けてくれた言葉と考えたらどうでしょうか？同じ言葉でもとっても意味のある言葉

となるのではないのでしょうか？

イエスさまのことばは、「私の姿は見えなくなるけれど、その代わりに聖霊が働いて、あなたを助け、支えて、あなたを決して見捨てていかない」という約束のことばです。

父なる神さまはこの世界をつくられた神さま

子なる神さまは、イエスキリスト

聖霊なる神さまは、共にいてくださる神さま

聖霊について、うまく言葉で説明しづらく、よくわからないといわれます。確かにわかりづらく、よくわかりません。でもわからなくても信じていることができるなら

それでいいのです。この地上にはイエスさまご本人はいません。イエスさまを直接見ることはできません。

『聖霊によらなければ、だれも「イエスは主である」と言うことができない。』コリント人への第一の手紙

12章3節にそう書かれています。

聖霊は空気、風にたとえられます。目には見えませんが、でもそこには力があります。感じる事が出来ます。聖霊はいつも働いて、一緒にいてくださる神さまだと忘れずにいてほしいと思います。

（お話 林部 弘先生）